

平成30年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年4月6日

上場会社名 株式会社メディア工房 上場取引所 東
 コード番号 3815 URL <http://www.mkb.ne.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長沢 一男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 長沢 和宙 (TEL) 03-5549-1804
 四半期報告書提出予定日 平成30年4月6日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年8月期第2四半期の連結業績(平成29年9月1日~平成30年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年8月期第2四半期	1,079	△4.2	16	394.0	17	—	3	△94.8
29年8月期第2四半期	1,127	11.7	3	△91.8	0	△98.2	61	—

(注) 包括利益 30年8月期第2四半期 1百万円(△97.3%) 29年8月期第2四半期 66百万円(571.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年8月期第2四半期	0.31	0.31
29年8月期第2四半期	5.74	5.73

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年8月期第2四半期	2,677	1,390	51.4
29年8月期	3,178	1,490	46.5

(参考) 自己資本 30年8月期第2四半期 1,377百万円 29年8月期 1,477百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年8月期	—	0.00			
30年8月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年8月期の連結業績予想（平成29年9月1日～平成30年8月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,350	4.4	70	—	60	—	15	—	1.44

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

これらの数値は、各事業の見通しに基づき予測する数値となっております。各事業の進捗並びに業績に与える影響を精査の上、当該連結業績予想に変更が生じた際は、速やかに訂正・開示いたします。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年8月期2Q	11,300,000株	29年8月期	11,300,000株
② 期末自己株式数	30年8月期2Q	1,080,876株	29年8月期	880,876株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年8月期2Q	10,373,820株	29年8月期2Q	10,738,659株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です。

本決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続きの対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表に対する監査手続きは終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

資料に掲載される業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提条件に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績のご利用に当たっての注意事項等に関しては、添付資料「1. 経営成績・財務状態に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益や雇用情勢の改善を背景として、緩やかな景気回復が続く一方、中国・韓国の情勢やアメリカの金融政策の動向による今後のわが国経済への影響が懸念され、依然として不透明な状況となっております。

このような事業環境の中、当社グループは、各コンテンツ内容の向上とともに決済手段を多様化することでユーザビリティを高め、1コンテンツあたりの収益増を図ってまいりました。電話占いを中心に、一部においては増収増益となりましたが、月額課金コンテンツ等の不調により占いコンテンツ事業全体としては減収減益となりました。ゲームコンテンツ事業に関しては、第1四半期連結会計期間より、子会社の売上から手数料等を控除して計上していることや、前連結会計年度末における当社ゲーム事業の事業整理により純粋に前年同期比較が可能ではないものの、営業利益黒字にて着地しております。当第2四半期連結累計期間より本格的に開始したメディア事業に関しては、1月より営業利益にて黒字化し、当事業年度中の収益基盤強化を強化しております。新規事業にかかる先行投資が営業利益を押し下げたものの、VR関連事業において新たに中国企業と事業提携を締結するなど、着実に事業を推し進めてまいりました。第3四半期以降につきましても、来期業績寄与に向けて、新規事業に注力してまいります。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,079百万円(前年同期比4.2%減)、営業利益16百万円(前年同期比394.0%増)、経常利益17百万円(前年同期経常利益0百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益3百万円(前年同期親会社株主に帰属する四半期純利益61百万円)となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

① 占いコンテンツ事業

当社では占いコンテンツ事業を、ISP(注1)、各移動体通信事業者、AppleやGoogle等のプラットフォーム向けに占いコンテンツを企画・制作・配信するビジネスを中心に展開する占いコンテンツ事業と、電話による占いサービス、並びにLINE株式会社の提供する各種占いサービスへのコンテンツ及び占い師の提供を行うOneto One Marketing事業に分けております。後者においては引き続き安定的な収益増となったものの、前者に関しては、コンテンツ市場全体のフリーミアムへの流れが影響し、月額課金コンテンツにおける会員費及び従量課金の減少が緩やかながらも継続したこと、また、当第2四半期連結累計期間においては広告宣伝費の増加に対して効果が現れなかったことから、減収減益となりました。当事業年度においては、引き続き効率的な広告宣伝のあり方について模索してまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における占いコンテンツ事業の売上高は881百万円(前年同期比1.4%増)、営業利益は250百万円(前年同期比7.6%減)となりました。

(注) 1. ISP 英語: Internet Service Provider

② ゲームコンテンツ事業

当社グループのゲームコンテンツ事業は子会社「株式会社ブルークエスト」、「株式会社ルイスファクトリー」の2社でゲーム制作及び配信を行っており、第1四半期連結累計期間に引き続き、ルイスファクトリーの主軸事業である国内セカンダリー事業を中心として事業を推進してまいりました。一部コンテンツのクローズや、新規の運営移管タイトルの未獲得及び売上から手数料を控除して計上していることにより売上の減少となりましたが、既存運営移管タイトルのプラットフォーム展開の拡張により、収益ベースでは増加いたしました。一方、ブルークエストに関しては営業損失を計上しており、今後は、事業規模縮小による赤字圧縮を行い、ゲームコンテンツ事業の収益を安定的な黒字としてまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるゲームコンテンツ事業の売上高は175百万円(前年同期比31.5%減)、営業利益は9百万円(前年同期は営業損失50百万円)となりました。

③ メディア事業

メディア事業においては、無料の占いと女性のライフスタイルに関する情報をコラム等でお届けする自社メディアサイト「カナウ」「yummy!」の運営を行っております。当社占い事業の主なターゲット層である20代から30代の女性が興味を抱く事柄を分析することで集客の強化に注力し、1月には黒字化を達成し、現在も月間平均PV1,500万を超えてとなっております。今後も継続的な営業利益の計上を目指し、広告強化を含む収入基盤の多角化を進めてまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるメディア事業の売上高は20百万円、営業損失は18百万円となりました。なお、メディア事業は第1四半期連結会計期間より報告セグメントといたしましたので、前年同期比は行っておりません。

④ その他

新規事業におきましては、VR関連事業を推進し、PIMAX社製品の国内販売総代理店としての営業活動を行う他、他企業との事業提携強化に注力いたしました。3月には北京凌宇智控科技有限公司（英語名LYRobotix Co., Ltd、本社：中国北京市海淀区、代表取締役：張道寧）（以下「LYRobotix Co., Ltd」といいます）と、同社が開発・製造しているVRコントローラー端末「NOLO」の日本における販売総代理権、および同社が運営するVRコンテンツプラットフォーム「NOLO HOME」の、日本におけるプラットフォーム運営権に関する業務提携契約を締結し、PIMAX社製品を含むハードウェア販売との相乗効果による国内VRコンテンツの拡充に向けて着実に歩を進めております。当社のみならず中国子会社においても売上が立ち始めたものの、事業計画に伴う人員増等により、当第2四半期連結累計期間における利益寄与には及ばず、増収減益となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるその他の事業の売上高は2百万円(前年同期比42.7%増)、営業損失は41百万円(前年同期は営業損失15百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は2,677百万円であり、前連結会計期間末と比較して501百万円減少しております。これは主に、現金及び預金が500百万円減少したことによるものであります。

(負債の状況)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は1,287百万円であり、前連結会計年度末と比較して400百万円減少しております。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が128百万円、長期借入金が237百万円減少したことによるものであります。

(純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,390百万円であり、前連結会計年度末と比較して100百万円減少しております。これは主に自己株式の取得により102百万円減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して500百万円減少し、1,726百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各活動によるキャッシュ・フローの状況とそれらの主な増減要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、22百万円の収入(前年同四半期は243百万円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益17百万円、減価償却費20百万円、売上債権の減少に伴う収入22百万円及びその他流動負債の減少に伴う支出27百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、57百万円の支出(前年同四半期は237百万円の収入)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出9百万円、無形固定資産の取得による支出44百万円、並びに敷金及び保証金の差入による支出9百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、468百万円の支出(前年同四半期は176百万円の支出)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出366百万円及び自己株式の取得による支出102百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成30年4月4日の「平成30年8月期 第1四半期決算短信」に記載のとおりであります。これらの数値は、各事業の見通しに基づき予測する数値となっております。従って、事業の進捗に大きな遅れや変更があった場合や、当事業が進出する海外諸国において法令が改正されあるいは情勢が変化した場合、変動する可能性があります。また、第1四半期連結会計期間より、事業の実態に即した売上高営業利益率を表すよう、子会社ルイスファクトリーにおける売上高を、各プラットフォームへ支払う手数料等を控除して計上しております。各事業の進捗並びに業績に与える影響を精査の上、当該連結業績予想に 変更が生じた際は、速やかに訂正・開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,226,553	1,726,186
売掛金	390,290	367,920
商品	—	895
仕掛品	15,593	18,463
貯蔵品	1,406	1,284
その他	73,564	71,034
貸倒引当金	△2,807	△2,642
流動資産合計	2,704,600	2,183,142
固定資産		
有形固定資産	22,344	27,943
無形固定資産		
のれん	50,418	44,116
その他	111,534	134,911
無形固定資産合計	161,952	179,027
投資その他の資産		
投資有価証券	66,172	64,346
敷金及び保証金	90,896	97,843
その他	162,023	154,611
貸倒引当金	△29,439	△29,439
投資その他の資産合計	289,652	287,362
固定資産合計	473,950	494,333
資産合計	3,178,550	2,677,476
負債の部		
流動負債		
買掛金	55,255	57,086
1年内返済予定の長期借入金	631,567	503,139
未払費用	60,210	56,555
未払法人税等	4,206	9,374
未払消費税等	26,100	17,835
その他	123,680	94,017
流動負債合計	901,020	738,009
固定負債		
長期借入金	787,129	549,244
固定負債合計	787,129	549,244
負債合計	1,688,150	1,287,254

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	451,459	451,459
資本剰余金	434,151	434,151
利益剰余金	941,935	945,146
自己株式	△352,194	△454,194
株主資本合計	1,475,353	1,376,564
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	—	△127
その他有価証券評価差額金	2,300	1,038
その他の包括利益累計額合計	2,300	911
新株予約権	12,746	12,746
純資産合計	1,490,400	1,390,221
負債純資産合計	3,178,550	2,677,476

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年2月28日)
売上高	1,127,446	1,079,538
売上原価	658,840	507,165
売上総利益	468,606	572,372
販売費及び一般管理費	465,233	555,711
営業利益	3,372	16,661
営業外収益		
受取利息	118	53
為替差益	402	3,388
未払配当金除斥益	—	1,752
その他	463	230
営業外収益合計	983	5,424
営業外費用		
支払利息	3,903	4,071
その他	194	86
営業外費用合計	4,097	4,157
経常利益	259	17,927
特別利益		
受取和解金	3,981	—
固定資産売却益	69,671	—
関係会社株式売却益	28,376	—
その他	1,492	—
特別利益合計	103,522	—
特別損失		
のれん償却額	4,902	—
その他	391	—
特別損失合計	5,293	—
税金等調整前四半期純利益	98,488	17,927
法人税、住民税及び事業税	14,723	4,570
法人税等調整額	22,275	10,146
法人税等合計	36,998	14,716
四半期純利益	61,489	3,211
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△168	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	61,658	3,211

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年2月28日)
四半期純利益	61,489	3,211
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,128	△1,262
為替換算調整勘定	—	△127
持分法適用会社に対する持分相当額	2,004	—
その他の包括利益合計	5,132	△1,389
四半期包括利益	66,622	1,821
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	66,791	1,821
非支配株主に係る四半期包括利益	△168	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年9月1日 至 平成30年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	98,488	17,927
減価償却費	55,850	20,285
のれん償却額	17,261	6,302
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△477	△165
受取利息及び受取配当金	△118	△53
支払利息	3,903	4,071
関係会社株式売却損益(△は益)	△28,376	—
固定資産売却損益(△は益)	△69,671	—
売上債権の増減額(△は増加)	△26,845	22,369
たな卸資産の増減額(△は増加)	△4,940	△3,643
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,406	1,831
未払費用の増減額(△は減少)	△3,642	△3,854
その他の流動資産の増減額(△は増加)	124,902	△5,678
その他の流動負債の増減額(△は減少)	55,017	△27,757
その他	11,395	△5,015
小計	230,339	26,620
利息及び配当金の受取額	118	53
利息の支払額	△4,019	△3,520
法人税等の支払額	△470	△1,016
法人税等の還付額	17,764	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	243,731	22,136
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△620	△9,306
有形固定資産の売却による収入	317,000	—
無形固定資産の取得による支出	△36,310	△44,853
無形固定資産の売却による収入	—	4,040
投資有価証券の取得による支出	△62,758	—
関係会社株式の売却による収入	62,758	—
投資不動産の売却による収入	40,631	—
敷金及び保証金の差入による支出	—	△9,191
敷金及び保証金の回収による収入	14,309	2,231
事業譲受による支出	△110,000	—
会員権の売却による収入	12,021	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	237,033	△57,080
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	200,000	—
長期借入金の返済による支出	△416,396	△366,312
自己株式の取得による支出	—	△102,000
ストックオプションの行使による収入	39,536	—
その他	—	△436
財務活動によるキャッシュ・フロー	△176,860	△468,749
現金及び現金同等物に係る換算差額	402	3,326
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	304,306	△500,366
現金及び現金同等物の期首残高	1,735,069	2,226,553
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,039,376	1,726,186

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年9月1日至平成29年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	占いコンテ ツ事業	ゲームコンテ ンツ事業	メディア 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	870,050	255,962	—	1,126,012	1,434	1,127,446	—	1,127,446
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	870,050	255,962	—	1,126,012	1,434	1,127,446	—	1,127,446
セグメント利益又は セグメント損失(△)	271,486	△50,896	—	220,589	△15,262	205,326	△201,954	3,372

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、AI事業、VR事業などの新規事業を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△201,954千円には、各報告セグメントに配分していない
全社費用△201,954千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成29年9月1日 至 平成30年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	占いコンテ ツ事業	ゲームコンテ ンツ事業	メディア 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	881,855	175,407	20,229	1,077,491	2,046	1,079,538	—	1,079,538
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	881,855	175,407	20,229	1,077,491	2,046	1,079,538	—	1,079,538
セグメント利益又は セグメント損失(△)	250,726	9,647	△18,957	241,416	△41,281	200,134	△183,473	16,661

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、AI事業、VR事業などの新規事業を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△183,473千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△183,473千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第2四半期連結累計期間において、セグメント情報におけるセグメント区分は、「占いコンテンツ事業」及び「ゲームコンテンツ事業」に区分しておりましたが、平成29年6月より事業開始していたメディア事業に関し、事業計画上の重要性が増したことから、「メディア事業」として「占いコンテンツ事業」から区分しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成しておりますが、メディア事業に関する記載すべき事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。